



# Suita Digital Citizenship

吹田市 デジタル・シティズンシップ教育通信 創刊号  
令和5年(2023年)3月20日 吹田市立教育センター発行



## SDC通信創刊!!!

～より多くの方にデジタル・シティズンシップ教育を学んでもらうために～

吹田市では、令和3年度より市内全小・中学校で他の自治体に先駆けて、デジタル・シティズンシップ教育(以下、DC教育)に取り組んでいます。このSDC通信は、DC教育を吹田市で根付かせ、子供たちがICTのより善い使い手、デジタル市民、そして持続可能な社会の創り手となるよう、保護者、市民の方々と一緒に共有すること、そして学校における授業改善等、取組の充実を図っていくことを目的としています。

通信では、GIGAスクール構想と同時に取り入れ、現在まで取り組んできた吹田市のDC教育の歩みについて、国の動向も踏まえながらお伝えします。また、授業実践に関する内容や子供・保護者の声も掲載する予定です。

子供を取り巻く大人も含めて、一人でも多くの市民がより善いICTの使い手になれるよう、ぜひご一読ください。

## デジタル・シティズンシップ教育とは?

今後通信を発行していくにあたり、DC教育とは何かということについてここで確認をしておきたいと思えます。

DC教育とは、現代社会がICT機器やインターネットを抜きにして成り立たないことを前提に、ウェルビーイングの視点から、それらを積極的に活用し、社会に参画するために必要な能力を身に付ける教育です。

授業では教材として取り扱っているエピソードを自分事として捉えながら、「立ち止まる」、「自分の感情(気持ち)に向き合う」、「考える」、そして「行動にうつす」という4つのステップを通して学び、スキルと行動を身に付けていきます。

## デジタル・シティズンシップ教育の3本柱

本市では、DC教育において大切にしたい考え方を3本柱としてまとめています。この考え方は、各校に示しており、子供たちにとってもICTを活用するときの軸となる考え方になっています。

この3本柱に「SUN ネット端末※は学習用」を加えた4本柱は、トラブルが生じた際にどの学校でも共通した指導を行うための軸足となっています。

※吹田市における1人1台端末の呼称

インターネットの世界は公共の場  
(仮想空間も現実空間も同じ)

ICTを責任を持って積極的に使う

立ち止まって考える  
(共感：相手の立場に立って)  
(ウェルビーイングの視点で)



SUN ネット端末は学習用

## Topic 国の動向

SDC通信では「Topic」としてDC教育に関わる文部科学省等の国の動向も掲載していきます。今回は、吹田市がDC教育に取り組むきっかけとなったGIGAスクール構想について取り上げます。

ICT技術の社会への浸透に伴って、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められるようになったことから、令和元年12月、文部科学省より全国の児童・生徒1人に1台の端末と高速ネットワークを整備するGIGAスクール構想が発表されました。

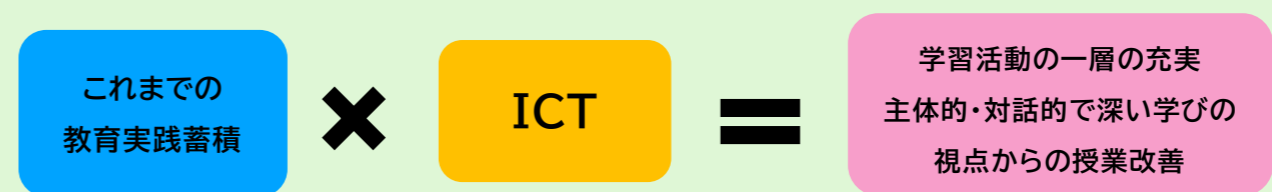
### ～1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」～

令和元年(2019年) 文部科学省(一部抜粋)

Society5.0時代に生きる子供たちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事や家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。

忘れてはならないことは、ICT環境の整備は手段であり、目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要です。その際、子供たちがICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。



### —吹田市としてのGIGAスクール構想の捉え—

GIGAスクール構想では、1人1台端末を学習用具として使用できることから、吹田市がこれまで取り組んできた人権教育、個別最適な学びをより充実できるのではないかと捉えました。そしてこの理念を実現するためには、テクノロジーを積極的に活用し、善き使い手となるための教育が必要であると考え、吹田市のこれまでの取組と親和性のあるデジタル・シティズンシップ教育を取り入れることとしました。

➡ここから吹田市におけるDC教育の取組がStart!!

### 【編集後記】

今回は、吹田市がなぜDC教育を取り入れたかについて取り上げました。今後は、授業実践や吹田市におけるその他の教育活動との関連性についても紹介をする予定です。

この通信を通して、市民教育であるDC教育をより多くの方に知ってもらい、ともに学べるよう発信していきます。  
(文責：飯田)

# 吹田市の挑戦 デジタル・シティズンシップ教育



HP  
(ホームページ)